

+ Ritchey DNA ～ロードトリップ 48～

自転車製品を生み出し商品になるにあたって、快適性が高いとか早く走れるとかスタイルいいとか価格が領けるとかをバランス良く揃えて、市場に出し持続的に販売し続けるのは結構難しいものです。数値と生産効率化に頼ると物が平均化され、特に作り手の拘りから醸し出されるような独特の個性は発揮し難くなります。

個性がないと愛着や面白みが薄れますが、必然的に個性が発揮されるような着眼点…少し逸れた盲点のようなポイントは、特に人力で動かす自転車が故にまだまだ残っているように思われます。但しそれは正解の着地点なくテーマも周回するような事なのかも知れません。

▶弊社オリジナルには、20 年ほど前から販売し続ける“Q ファクターが狭い（且つ短い）クランク”や“レール幅の狭いサドル”や“シャフトの狭い（短い）ペダル”など、当時あまり語られなかった“狭い系”のポイントに重要視した製品群があります。（vol.8-9 参照）その中で、ペダルシャフトを通常より約 5mm 狭く（短く）した 48mm シリーズのペダルは現在 4 種類あり、更に MTB 用も復活する予定です。

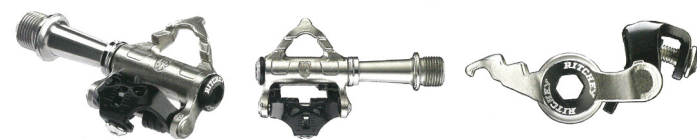
今回はそのペダルについて、単純に 48mm だけに特化して拘っているわけではなく、ボディースタイルなども含めてバランスを追求した製品である点をお話します。

<ロードトリップ 48 シールドペダル>

▶30 年近く前「RITCHEY ROAD LOGIC PEDAL」という名品がありました。今だ現役のレジェンド、トム リッチーのロジック（コンセプト）がパーツ類にも表現され、オンオフ問わずトップレースでリッチーパーツが多用されて来た時代です。ペダリングの効率化と軽量化を片踏みで設計したこのペダル、当時の商品説明には「ペダル面を極限まで軸に近くする事で安定性が得られ理想のコーナリングが可能」とされています。数年後には継承しバージョンアップした「RITCHEY Pro Micro ROAD PEDAL」を発表。ニッケルやステンレスを使用した超軽量でロープロファイルを更に追求しています。しかしその後このタイプの製品の販売が終了します。この時の RITCHEY は SPD スタイルながら専用クリートを使用することになっていました。名称には必ず“ROAD”と入れていたところもリッチーの拘りでした。



▲リッチーが最初に設計した「ROAD」LOGIC PEDAL は 1990 年代の作



▲究極スタイルとなったリッチー「Pro Micro ROAD」PEDAL は 208g と軽量

▶どうにかこの優れたスタイルを商品として続けられないか…リッチーペダルを製造していた工場は弊社のペダル生産などで長年の付き合いがありました。そこで構造を継承し SPD タイプを取り入れた製品を作り、加えて 48mm を採用したのが Dixna「ロードトリップ 48 シールドペダル」（シールドベアリングになったのは第 2 世代から）です。ボディーはバネ機構部以外は強度と精度を両立した鍛造で、頑強且つロープロファイルでコンパクトな片踏み SPD タイプ。SPD タイプでは最もコンパクトなペダルのひとつです。歩けるシューズでクリートキャッチもスムーズ、日常使いも旅使いも気軽に、オンロードとグラベルなどのオフ共に向いていながら 48mm である事が拘りです。

▶48mm のメリットは狭小 Q ファクターと同じく狭いことで、ライダーによってはかなり効率良いペダリングを可能にしますが（vol.8-9 及び vol.86 最下段参照）、更には軸が短い事でペダルへの伝達効率も良いとされ、例え 28cm クラスのシューズでもクリート調整でクランクを擦ることもありませんしギリギリを狙えます。

リッチーの DNA を持ちつつ 48mm としたコンパクト SPD タイプ、流行に揉まれない拍子の揃ったバランス感ある製品のひとつではないかと思います。



▲ディズナの「ロードトリップ 48 シールドペダル」のボディーは見ての通りリッチーロジック譲り



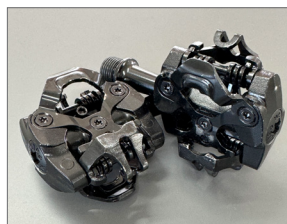
◀勿論ロープロファイル設計であり SPD タイプの超コンパクトな手のひらサイズ



▲こちらはフラット & SPD の 48mm 「FP スポットクリップレス 48 ペダル」



▲純粋なロードシューズ向け 48mm 「ファスト 48 ペダル 2」は伝達効率を高める踏み面を広げた設計



◀現在開発テスト中の 2 世代目両面 SPD タイプは、2026 年に発売予定（写真はテストモデルです）